

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第19号

令和8年7月発行

京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

好事例をホームページに追加！

～ 就学前施設の視点から、子ども同士の交流を考えた事例も掲載 ～



令和7年度の実践推進校および連携園を中心に、昨年度に実践された取組をまとめました。その中から、「架け橋プログラムの手引き」等では紹介されていない8事例を厳選し、京都市教育委員会のホームページに掲載いたしました。（上記のQRコード参照）

【スタートカリキュラムの好事例】

○なかよしタイム・わくわくタイム・のんびりタイム

1年生が小学校生活へスムーズに移行できるよう、3つの時間を設定して取り組んでいます。特に「わくわくタイム」では、「行ってみたい！」「あれは何だろう？」といった子どもたちの疑問を解決する時間として工夫されています。

【子ども同士の交流の好事例】 ～就学前施設の視点から～



1年生はやっぱりすごい

○砂場でマグマ大噴火！！ ～1年生と一緒に砂場で遊んだよ～

園の砂場を学びの場とし、5歳児と1年生の交流を実施しました。

前日まで5歳児が楽しんでいた「マグマ遊び」を再現し、そこに1年生が加わる形で活動を展開。事前の打合せにおいて、幼小の教員が互いの思いに耳を傾け理解を深めたことで、子どもたちが主体的に遊び、学ぶ姿が見られた事例です。



気になっていた池を探索中！

【大人同士の取組の好事例】

○交流の園外保育の事前研修(下見)の中で

現地下見を兼ねた事前打ち合わせを、1年生担任、育成学級担任、幼稚園・保育園5歳児担任が集まり、行いました。それぞれの立場で意見を出し合い、交流のねらいや援助のポイントを共通理解しました。交流本番は、どうなったのでしょうか。



その他の好事例

○入学直後の安心感を高めるスタートカリキュラムの工夫

- ・「あさのじゅんぴ」と生活科「いちねんせい」が「はじまるよ」

○就学前施設との連携による学びの充実

- ・国語科「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

○幼小の教員(大人)同士の対話や研修による連携強化

- ・幼小合同研修会

○5歳児と1年生の交流活動の実践(遊び・年間交流など)

- ・1年間を通じた交流
- ・生活科「ふゆと ともだち」



「さんぽ」の歌は知ってるよ！



園庭に比べて広いな！

活用しましょう!! 京都市「架け橋期のカリキュラム」例(Word版)

～教育委員会ホームページに掲載！ 各校園の実態に応じて編集・活用できます!!～

手引きのP.26～29に掲載している『京都市「架け橋期のカリキュラム」』について、多くの校園から「自校ブロックでカリキュラムを作成する際の参考として、Word版が欲しい」とのご要望をいただいていた。このたび、教育委員会ホームページに、編集可能なWord版のカリキュラムを掲載いたしました。各校園において「架け橋期のカリキュラム」を作成・見直しする際の参考資料として、ぜひご活用ください。



安心感をまんやかに
考える

今年度も開催しました！(5月23日)

乳幼児と小学生の子育て講座④

『子どものアタッチメント(愛着)と心の発達』

立命館大学 教授 篠原郁子先生に ご講演いただきました

架け橋プログラムでは、乳幼児期から小学校への育ちと学びの連続性を大切にしています。今回の講演では、子どもが安心感を基盤に探求する力を育むアタッチメント理論に基づき、家庭・園・学校で、子どもの成長を支える大人のかかわりについて学びました。

アタッチメント関係とは

子どもが行動する中で危機や恐れ、不安を感じたとき、大人にくっついて「安心したい」「ホッとしたい」というアタッチメント欲求が高まります。子どものこうした基本的欲求に応答し、安心感を支える大人との関係をアタッチメント関係といいます。

“安心感の輪” 子どもは、アタッチメント欲求に応じてくれる大人との間に「安心感の輪」を経験しています。



不安な時に支えてくれる大人がいることで、子どもは何度でも安心感を取り戻し、自律的な探索活動を拡げることができます。

アタッチメント関係は、家族以外の大人、保育者や教師など複数の大人とも形成されます。それらの関係は互いに補い合い、子どもの発達に影響します。

大人に求められるのは、子どもの行動の背後にある気持ちを想像することです(メンタライジング)。子どもの感情に気づき、言葉にし、共に気持ちを整える関わりが重要です。抱っこやそばに居ることなど様々な形で安心を与えることです。大切なのは量や完璧さではなく、子どもの状態に応じた応答であり、その積み重ねが子どもの社会的・情緒的発達を支えていきます。

大人にも必要なアタッチメント関係

子どもの気持ち、育ちを支える大人も安心感があるときに十分力が発揮できます。大人にも安心の基地、避難所はあってほしいですね。

アンケートより

(保護者から)
「安心感の輪」の話が、
とても分かりやすかったです！

(保育者から)
親子だけでなく保育者との関係
も同様であること、
大変学びになりました。

(小学校の先生から)
子どもが安心の基地から自らやって
みたいと思って活動することが学校
教育の中でも大事だと思いました。

コラム

なかにしサンの 幼分補給

架け橋プログラムの視点の一つとして

「園での合理的配慮をつなぐ実践」(5歳児A君)

ある園の卒園式のおけいこを見ました。支援の必要なA君。椅子の上に先生が作ってくれた青い箱の座布団に座り、落ち着いています。立派に証書ももらい、歌を歌う時には、歌詞に合わせたペープサートを揺らしながら、みんなと一緒に並んでいました。「こんなに大きくなったんだ」と嬉しくなり、涙が出ました。運動会の頃は、みんなと一緒に走るのが好きなので踊りの演目の時も旗を持たせてもらって、みんなの周りを走っていました。先生に聞くと、「字は読めるけど、言葉が出ない。私たちは、A君の気持ちを知りたかったのです」とおっしゃられ、感情を表したカードや、五十音の書いた紙、場所の写真などを用意され、行きたい場所を選んだり、「い・や・や」と気持ちを文字を押さえることで表したりしていたようです。そういえば、1年生との交流時も先生が椅子をA君が青い座布団を持参して、落ち着いて参加していました。そして、たくさんの「A君セット」と共に入学。学校の先生ももらってください、今も赤ちゃんになりつつある青い座布団に座っているようです。園

中西 昌子(なかにし しょうこ)



京都市教育委員会 学校指導課 参与
市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、
竹田幼稚園長、市教委首席指導主事を
経て、平成三十年から現職。

